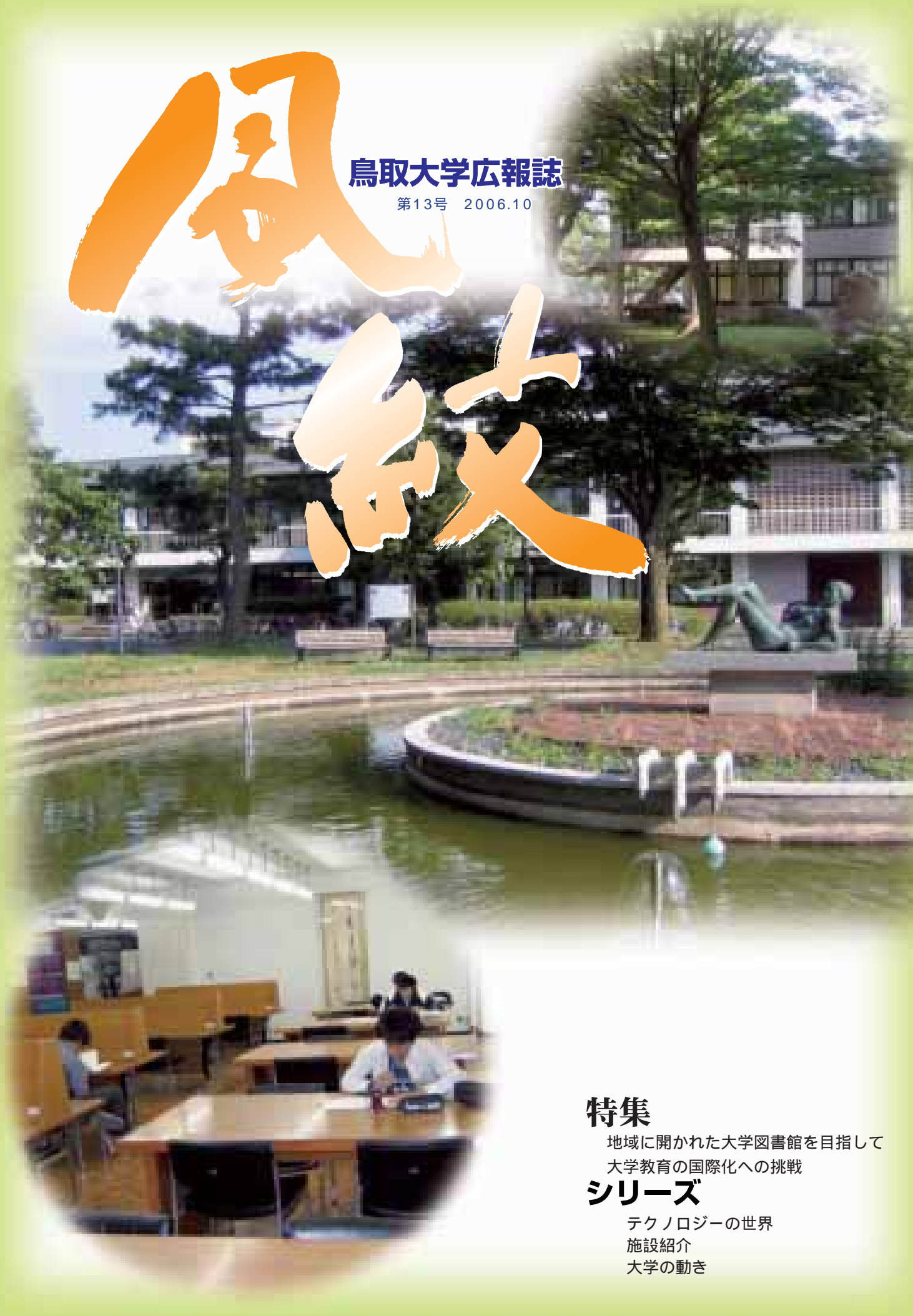


風紋

鳥取大学広報誌

第13号 2006.10



特集

地域に開かれた大学図書館を目指して
大学教育の国際化への挑戦

シリーズ

テクノロジーの世界
施設紹介
大学の動き

特集にあたって

鳥取大学の目指す“地域に立脚した大学、地域に密着した大学”の方向性は、大学での教育・研究だけでなく、その知的資産の宝庫ともいべき図書館でも同様の展開が図られています。鳥取大学広報誌「風紋」の第13号では、特集として地域に開かれた大学図書館のための近年の変貌ぶりを紹介しています。また、大学教育を世界に広く繋げるための、大学教育の国際化推進への挑戦の様子も合わせて載せています。鳥取大学から地域に世界に展開する様子的一端を、ご理解頂ければ誠に幸いです。

委員長 福井 茂壽

鳥取大学附属図書館の地域貢献活動

鳥取大学附属図書館は鳥取地区の中央図書館と米子地区の医学部分館の2つからなり、それぞれ、大学における教育・研究活動の支援はもとより、一般市民も対象にした図書資料(蔵書約65万冊)の貸出サービスや講演会・公開展示の開催などを通して、地域の文化向上や生涯学習活動へ貢献しています。

1 利用について

開館時間

- ・平日 9:00～21:00
(夏休み等の休業期は9:00～17:00)
- ・土曜日・日曜日・国民の祝日 9:00～17:00

休館日

- ・年末年始(12月28日から1月4日まで)
- ・休業期の土曜日・日曜日・国民の祝日

利用手続き

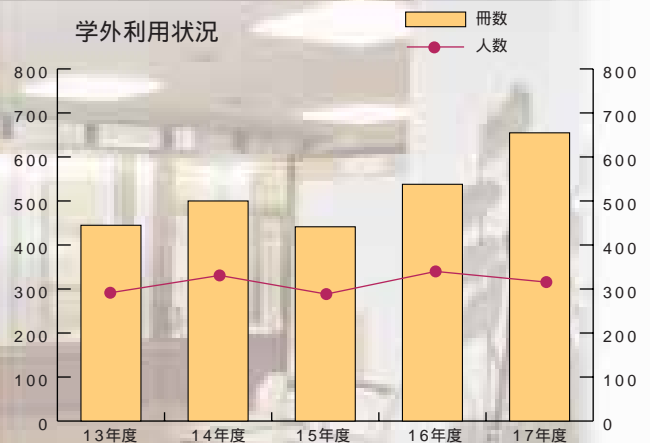
一般の方で図書の貸出を希望される方には「利用者カード」を交付します。交付申請書を記入の際、身分を明らかにする書類(身分証明書、運転免許証等)が必要です。

2 提供サービスと活動

(1)資料の閲覧、館外貸出、文献複写など

- ・館内での閲覧は自由です。
- ・館外への貸出冊数・貸出期間は2冊まで・14日間(雑誌、視聴覚資料は館内利用のみ)
- ・文献複写(土曜・日曜・祝日を除く。1枚あたりモノクロ35円、カラー85円)
- ・情報メディアルームのパソコン利用(カウンターへお問い合わせください)

学外利用状況



学外者の利用状況は、グラフで示すとおり貸出冊数は年々増加していますが、利用者数はほぼ横ばいで推移しています。

もっとたくさんの方々に利用していただけるよう、地域の図書館との連携強化に努力します。

(2) 公開展示・講演会等の開催

貴重・郷土資料やエンブレム(寓意図像集)関係コレクションなどの特別資料の公開展示、さまざまなテーマの講演会等を開催しています。

貴重資料・郷土資料〔中央図書館所蔵〕

鳥取県・鳥取大学の歴史を語る数々の資料を郷土資料として所蔵しています。中心は旧鳥取県師範学校郷土研究室が所蔵していた近世・近代の郷土資料で、約1,200点の資料、約100点の書画です。また、資料的に価値のある刊本・写本等については、その一部をほぼ毎年公開しています。

- ・旧池田藩関係書画
- ・江戸後期、明治期に活躍した鳥取関係文化人の書画や著作
- ・旧鳥取県師範学校郷土研究室所蔵郷土資料

貴重資料・郷土資料 〔中央図書館所蔵〕

特別コレクション 〔中央図書館所蔵〕

- ・旧鳥取高等農業学校所蔵学制頒布50周年記念図書
- ・キューリー夫人書簡

特別コレクション〔中央図書館所蔵〕

- ・百部叢書集成
- ・コロンビア大学教育学叢書
- ・ガゼット・デ・ボザール(1859年創刊のフランスの美術雑誌)
- ・世界センサス集成(アジアの人口・所得・労働・産業・教育統計)
- ・ランドルト・ベルンシュタイン科学技術数値データ集 第3集
- ・エンブレム〔寓意図像集〕関係コレクション



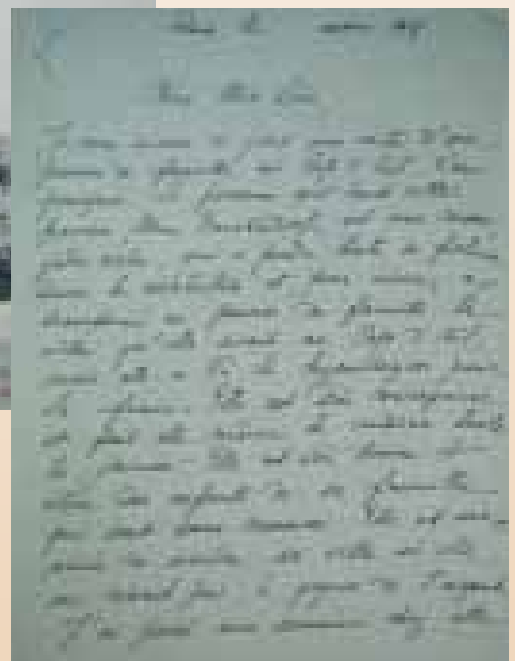
平成17年度公開展示
「郷土の文化人たちIII」の様子

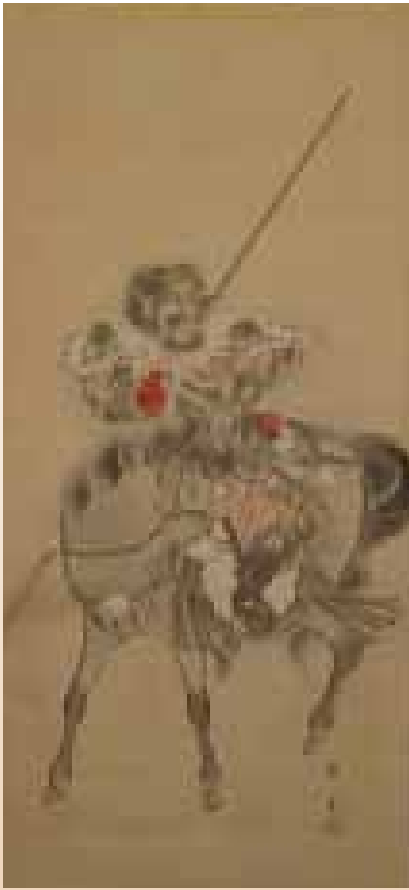


キューリー夫人(1867-1934)自筆の書簡

夫人が1929年3月にパリのロイさん宛に出したもので、「自分がかつて滞在した南フランスの保養地のペンションを経営している知人が、収入が少なくて困っているので客を紹介してほしい」と依頼をした、彼女の友人を思うやさしい心を伝えている。

これは昭和52年に本学農学部の前身である鳥取高等農業専門学校農芸化学科卒業生の三宅輝武氏より本学創立30周年を記念して寄贈された。





青木図南（不詳～1859）「馬上武者像」

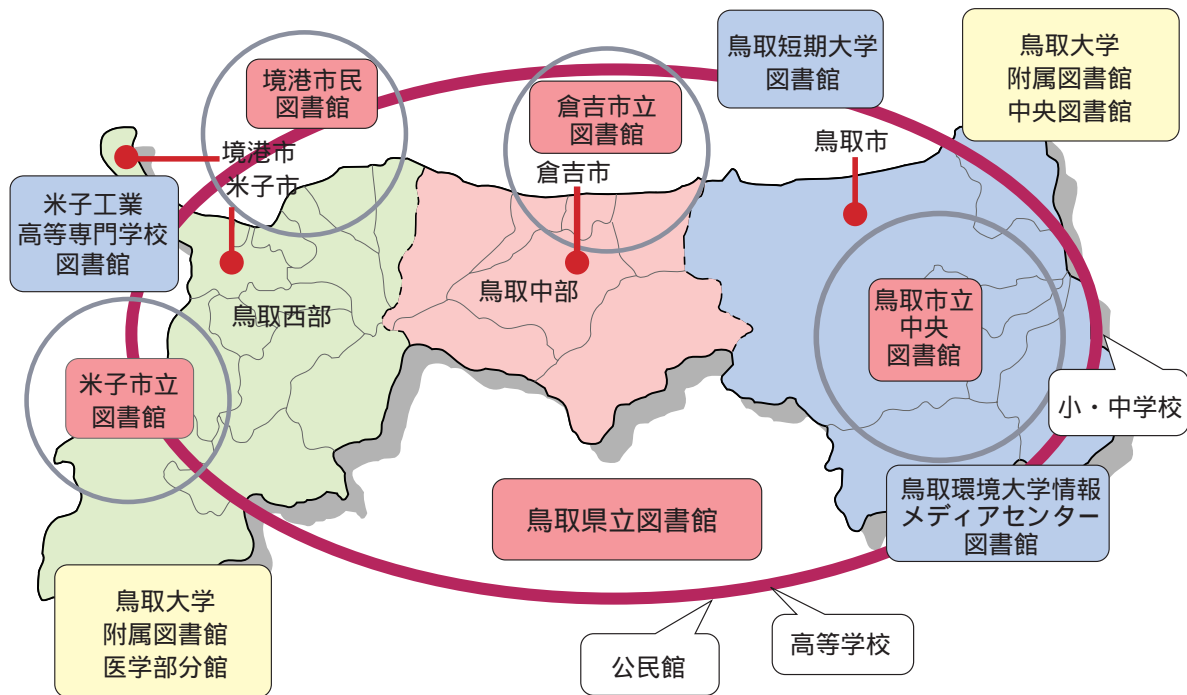
鳥取に生まれた荒尾近江の家臣。柴田義董に絵を学び、京都四條派風の絵を描いた。特に人物画では並ぶ者がないと言われ、真に迫った精巧な絵を描いている。当館では他に「猿回りの図」も所蔵。



エンブレム〔寓意図像集〕関係コレクション

16～18世紀に刊行されたエンブレム関係図書（死の寓意表現の代表である「死の舞踏」を含む全6点）1セットで、美術表現のうえでも、刊行当時の西洋の世界観〔思想・歴史・文学〕を知るうえでも重要な著作であり、美術的、歴史的に非常に価値の高い資料。

（3）地域図書館ネットワークの核としての活動



鳥取大学附属図書館は、鳥取県内の大学・短大・高専及び公共図書館と相互協力協定を締結し、県内図書館ネットワークの核として活動しています。このように、県立図書館の他にも県内全市の市立図書館との協定を締結した大学図書館の例は、全国的にも非常に珍しく大変高い評価を得ています。これによって県内の約250万冊が利用できる環境となり、さらに町立図書館や高等学校などへもサービスを展開しています。

県内公共図書館との相互協力協定

相互協力協定による主な活動内容

図書資料の相互貸借・文献複写、レファレンスサービス

市民の方は、協定を結んだ公共図書館のカウンターへ申し込めば、大学図書館資料の貸出、文献複写、レファレンスサービスを受けることができます。

講演会・研修会・シンポジウムなどの共同開催

市民の方々も対象とした講演会、研修会、シンポジウムなどを、協定を結んだ公共図書館と共同で開催しています。また、各館の所蔵資料を持ち寄っての共同での公開展示も検討しています。

<最近の講演等の共同開催状況>

○「チャレンジコミュニケーション - コミュニケーション上手になるために -」

(医学部 高塚人志氏、米子市立図書館と共催)

○シンポジウム「日本酒の魅力、地酒の魅力～文化に支えられた伝統とハイテク醸造技術～」

(県東部地区蔵元5社、鳥取市立中央図書館と共催)

○「プレゼンテーション入門 Power Pointの使い方」

(大学図書館 白木俊男氏、米子市立図書館と共催)

○「聊斎志異と神話の世界」

(地域学部 塩見邦彦氏、鳥取市立中央図書館と共催)

○「骨の今昔物語～遺跡の骨・現代の骨から分かること～」

(医学部 井上貴央氏、境港市民図書館との共催)



協定記念シンポジウム 日本酒の魅力 地酒の魅力

鳥取地区の蔵元3社のリレー講演に続いて、県東部蔵元5社を集めたパネルディスカッションが行われ、酒造りへの熱い思いを語りあった。



協定記念講演会「骨の今昔物語～遺跡の骨・現代の骨から分かること～」

講師が、県内遺跡出土の弥生人の脳の鑑定を行い、新聞で「青谷の弥生の物語」を連載していることもあって、会場は定員をはるかに超す170名の参加者で一杯になった。講演は、「竹取物語」風に、古代の話から最近食された鯛の話まで、骨にまつわるエピソードが次から次へとテンポ良く紙芝居的に飛び出し、多くの市民から大変わかりやすく勉強になったと大好評だった。

鳥取県大学図書館等協議会加盟館ならびに公立図書館横断検索システムによる検索

鳥取大学附属図書館のホームページに接続し、右の図書館横断検索画面から各図書館の所蔵資料を探ることができます。



鳥取県立図書館との相互職員派遣研修

各々の館員が異館種の図書館業務を体験してスキルアップするとともに、両館が新しい風を受け入れて活性化していくことが期待されています。

(4) 職場体験学習による中学生の受入

平成12年度から鳥取市立湖東中学校、14年度から本学附属中学校の職場体験学習を毎年受け入れています。これは、仕事や社会へ積極的に関わる体験を通して人間関係づくりを学び、共に生きる心や感謝の心を育むことを目的として両校が毎年実施しているもので、生徒たちは、慣れない作業に戸惑いながらも、カウンターでの図書の貸出・返却処理をはじめ、書誌データをダウンロードなどの業務を体験しました。体験学習を終えた中学生からは「難しいことがたくさんあって失敗も多かったが、いろいろな仕事の楽しさや大変さが学べてよかった。」「カウンターの外からは見えない部分で、様々な人が役割を持って働いているのを知って驚いた」などの感想が寄せられました。



熱心にカウンターで貸出・返却業務を行う中学生



事務室で雑誌受付業務を実習する中学生

3 地域に開かれた大学図書館

大学は、その知的資源をもとに社会の発展に貢献できるよう、地域社会との連携・交流の強化を今後も積極的に推進しなければなりません。

大学図書館においても、これまでの一般市民に対する開放や公共図書館との資料の相互利用といった取り組みに留まらず、大学図書館職員が有する専門的知識を有効活用した取り組みが必要になると考えられます。

例えば、公共図書館と連携した図書の物流手段を改善し、大学図書館で県民・市民が県立図書館、市立図書館の所蔵資料を貸出・返却できるようなキメの細かいサービスへ拡張することや、また、現状では利用制限を余儀なくされている電子ジャーナルや二次文献データベースの利用を、より自由に提供できるよう工夫して、もっと高度な情報提供を実現させる必要があります。

鳥取大学附属図書館はそれらを探りながら、こうした公共図書館との協力関係を発展させて、館種をこえた地域協働型の図書館ネットワークを構築し、情報資源の共有を積極的に展開したいと考えています。そして、よ



り一層地域に開かれた大学図書館を目指して行きたいと思っています。



鳥取大学附属図書館

<中央図書館>

鳥取市湖山町南4丁目101番地 〒680-8554

TEL 0857-31-5672 (資料サービス係)

FAX 0857-28-6346

<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

<医学部分館>

米子市西町86番地 〒683-8503

TEL 0859-38-6462 (医学情報係)

FAX 0859-38-6460

<http://lib.med.tottori-u.ac.jp/>

大学国際化推進のトップランナーを目指して!!

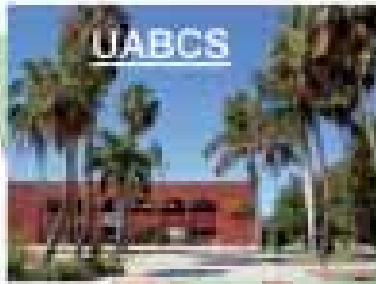
「鳥取大学から世界で活躍する人材を育てたい!!」この強い思いから鳥取大学は、幅広い分野で国際人の養成に全学を挙げて取り組んでいます。

文部科学省が推進する「大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援事業)」においては、100を超える大学の中から鳥取大学のユニークな構想が国際教育モデルとして採択されました。これは、多国籍、多言語、異環境をキーワードに、鳥取大学をはじめ、アメリカ、中国、韓国、メキシコの5大学から優秀な教授陣を海外の協力校に迎え、鳥取大学の授業と

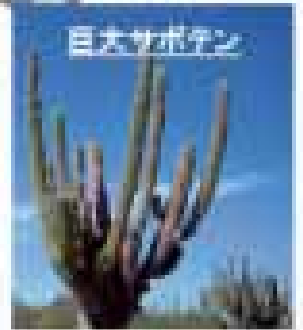
して実施するもので、3年生を中心に全学から選抜された20名の学生を9月26日から約3ヶ月間海外へ派遣しています。

海外の拠点は、メキシコ・ラパスにある南バハカリフォルニア自治大学(UABCS)とメキシコ北西部生物学研究センター(CIBNOR)で、講義(8単位)とフィールドワーク(10単位)を含む、実践力強化を目指した授業を行います。他では学び、経験できない内容を大いに盛り込み、斬新で魅力的なものにしています。

文部科学省戦略的国際連携支援事業(2006~2008) 持続性ある生存環境に向けての国際人養成ー沙漠化防止海外実践教育カリキュラムー



ラパス



大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)によるアメリカからのコンサルタント招へい

文部科学省の「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」の採択を受け、アメリカ合衆国ボストン在住のジョン・マグワイヤ氏、リンダ・マグワイヤ氏を招き、7月26日に「米国における教育センターの大学経営の優秀戦略」についてのテーマで講演会を、27日に役員会メンバーを対象に「大学経営の基本とリーダーシップ」、部局長等を対象

に「教育センターの大学運営へ(教職員の意識改革)」のテーマで研修会を行いました。マグワイヤ氏の経営するマグワイヤアソシエーツ社は、全米を初め、英国、アイルランド、オランダ等の250以上の教育機関をクライアントに持つコンサルタント会社です。この試みは鳥取大学の今後の教育改革にとって有意義な機会となりました。



講演会で説明するリンダ・マグワイヤ氏



研修会で講演するジョン・マグワイヤ氏

古くて新しい電気……静電気

冬場にドアノブなどをさわるとビリッとくる。これは静電気のしわざですが、静電気とはどのようなものなのでしょうか？厳密な定義はありませんが、おおざっぱに「電圧が極めて高く、電流が極めて小さい」電気をさします。ドアノブにさわるとビリッときて我々を不快にさせるものですが、利用法によってはいろいろ役に立ちます。

静電気を利用した農薬散布

たとえば作物に農薬を散布するときに散布ノズルに電圧を

かけて農薬粒子を帯電させると、作物全体に農薬をまんべんなく行き渡らせ、農薬の使用量も減らすことができます。

図1のように横1列に並べた二十世紀ナシの樹で実験してみました。まず普通に（電圧をかけずに）噴霧すると、図2のように中央の樹のノズル側の葉の一部だけに薬液（赤い水滴）が付着しました。次にノズルに電圧をかけながら噴霧すると、図3のように3本の樹全体にまんべんなく薬液が付着し、ノズルの反対側の葉にも薬液が付着しました。この実験では薬液の付着量はノズルに電圧をかけることで、5倍に増えました。



図1 静電気を使った農薬の散布実験の配置

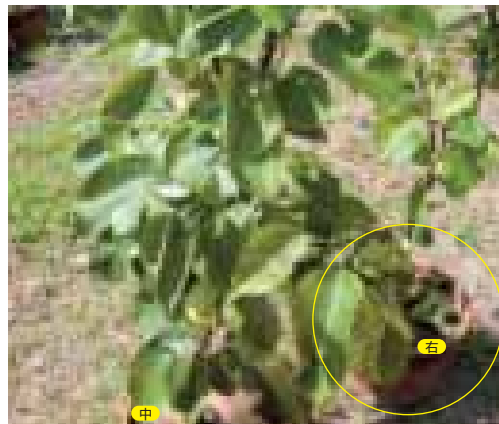


図2 電圧を加えずに農薬を散布
ノズルの正面（円内）にのみ付着



図3 電圧を加えて農薬を散布
3本の木全体に付着

ゑれきてりせいりてい

静電気は「人類が初めてふれた電気」であり、いまから約2600年前のギリシャでは存在が確認されていました。当時は「軽いものを引きつける不思議な力」「しかし何の役にも立たない」と考えられていたようです。静電気に関する研究が始まったのは16世紀から17世紀のヨーロッパでした。研究のために静電気を発生させるいろいろな装置が開発され、日本には18世紀の徳川吉宗の蘭書解禁によるヨーロッパの技術の流入とともに「ゑれきてりせいりてい」の名で紹介されました。この静電気発生装置を日本人で初めて作成したのは高松藩の平賀源内です。彼の作成した「エレキテル」は日本最初の電気機器であり、逡信博物館（東京都）と平賀源内先生遺品館（香川県さぬき市）に収蔵されています。源内の後もいろいろな人がエレキテルを作成し、その設計図などが伝わっています。その設計図に基づきエレキテルを復元しました。図4はその内部構造であり、装置外側のハンドルを回すと大小の滑車およびガラス筒が回転し、ガラス筒は真鍮粉を塗った和紙と摩擦することでその表面に電気を発生し、発生した電気はブラシ（鉄鎖）によってライデン瓶（蓄電装置）に蓄えるしくみです。このエレキテルでは約7000ボルトの電圧



図4 再現したエレキテルの内部構造

を出すことができます。大学の講義でこの装置の実演を行い、約80名の学生を同時に感電させることに成功しています。

（工学部 西村 亮）

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

最近、BSE、SARS、高病原性鳥インフルエンザなどの人獣共通感染症が出現して大きな社会問題になっています。平成17年4月、本センターは農学部鳥インフルエンザ等の鳥類から人に感染する感染症への対策を確立する目的で設立されました。鳥インフルエンザについては、国内での出現予測、病原体の生態、病原性、遺伝子性状の解析等を行い、新たな流行防止対策の確立を図り、国内危機管理体制確立に寄与することを目的としています。その他、サルモネラあるいは西ナイル熱などの対策に国際的な規模で取り組みます。

病態学研究部門

野鳥の生息状況、飛翔路、病原体保有状況調査、異なる動物間伝播のメカニズムの研究などを行っています。これらの研究により、今後我が国に侵入する恐れのある鳥由来人獣共通感染症を早期に発見し、直ちに対策を講じることができるようになります。



鳥インフルエンザウイルスの保有宿主(カモ)



山階鳥類研究所との共同野鳥捕獲調査

疾病管理学研究部門

病原微生物の感受性や病原性獲得のメカニズム、新しい抗微生物活性物質の研究などを行っています。これらの研究により、鳥由来人獣共通感染症を防ぐための具体的方策（抗ウイルスマスク等）の開発を目指します。

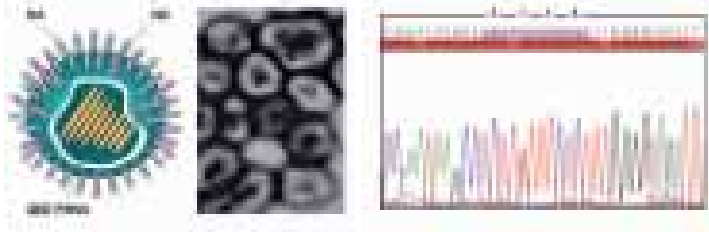


雛の感染実験におけるウイルス接種の様子

抗ウイルス活性を有する新規物質の検索

分子疫学研究部門

疫学調査で得られた病原体の遺伝子の比較解析や分子疫学情報のデータベース化などを行っています。これらの研究により、鳥由来人獣共通感染症の流行を予測し、早期警告システムの確立を目指します。



鳥インフルエンザウイルスの構造と電顕写真

鳥インフルエンザウイルスの遺伝子解析

共同研究体制

- 外国研究機関 韓国国立検疫科学研究所、米国農務省Southeast家禽研究所、ベトナム国立衛生疫学研究so、中国ハルビン獣医研究所など
- 国内研究機関 動物衛生研究所、(財)山階鳥類研究所、国立感染症研究所、北海道大学人獣共通感染症センター、東京大学医科学研究所、長崎大学熱帯医学研究所など
- 産業界 食品流通業界、養鶏業界、薬品業界、医療機関など

学業優秀による入学料・授業料の免除制度を創設

平成18年度から、鳥取大学は、従来の経済的理由による入学料及び授業料免除制度に加えて、学長が特に学業優秀であると認めるものに、入学料又は授業料が免除される制度を設けました。

この制度は、学習意欲の向上と経済的負担の軽減を目的としたものであり、学部長（大学院にあっては研究科長）の推薦に基づき学長が決定するものです。

種類	対象	免除額	実施人数
入学料免除	大学院生	原則：半額免除	約20人
授業料免除	学部生 (2年生以上)	原則：全額免除	約60人
	大学院生 (修士(博士前期)課程)		約30人

就職支援バスを運行 大学～大阪間を片道千円で

就職支援バスは、企業訪問や就職セミナー等への参加など就職活動を行う学生の経済的負担の軽減と活発な就職活動を期待し運行が開始されました。

平成17年7月に就職活動を終えた4年の学生等にアンケート調査をしたところ、負担額で5～10万円が約26%、10～20万円が約25%、20万円以上のものが9%あり、半数以上が「大変負担が大きい」と回答し、就職活動の行き先は、大阪など関西方面が最も多いことわかりました。

この結果をもとに、鳥取大学は、3月から5月までの間毎週月・水・金にバスをチャーター（学生負担：片道千円）して大学・大阪間を運行することとしました。

1日運行当たり平均約29名（往復）の乗車があり、当初の予想以上の好調な乗車状況で、利用学生から高い評価を得ました。

バスをチャーターして定期的に運行する例は国立大学では初めての試みで、報道関係各社から多くの取材が寄せられました。



就職支援バス第1便の出発の様子



主演の鳥居しのぶさんに演技指導する浜野監督

鳥取大学図書館で映画『こぼろぎ嬢』の撮影ロケ行われる

去る平成18年5月27日（土）、映画『こぼろぎ嬢』（浜野佐知監督）の撮影ロケが鳥取大学附属図書館中央館で行われました。

この映画は、鳥取県岩美町出身の女流作家、尾崎翠（1896 - 1971年）原作の短編「こぼろぎ嬢」「歩行」「地下室アントンの一夜」を1本にまとめた恋愛映画で、家の片隅にひっそりと息づくコオロギに自らをなぞらえた女性を主人公に描いています。

鳥取県支援事業でもあるこの映画は県内各地で撮影が行われましたが、鳥取大学でのシーンは、主人公が書庫で大好きな本に囲まれて幸せそうに歩き、閲覧室の片隅で読書にいそしむ姿が撮影されました。

夕方まで続いた撮影では、浜野監督のメガホンが鳴り響くなか、スタッフ約20人が忙しく動き回る姿が見られました。

「テレマン・トリオ・ベルリン」レクチュア・コンサートを開催

鳥取大学では、学生の人格形成の「人間力の向上」のため、また、学生、一般市民が一流の芸術家の演奏に触れることを目的に、ベルリンフィルハーモニーのヴァイオリン奏者、ロレンティウス・ディンカ氏の主宰「テレマン・トリオ・ベルリン」のレクチュア・コンサートを6月5日に開催しました。

国際的に活躍する芸術家が奏でるヴァイオリン、フルート、ピアノの音色は、間近で視聴する学生と一般市民約300名を魅了。

レクチュアでは、曲目の紹介に併せ、楽器や楽譜、演奏曲の時代様式などをわかりやすく、時にはユーモアを交えて解説され、視聴者の笑いも誘っていました。



観衆を魅了する芸術家の演奏

日韓学生による海洋漂着ゴミの回収事業

近年、日本海側の海岸に韓国、中国、ロシアから多量の海洋ゴミが漂着し、海岸の美観や安全の面から大きな社会問題となっています。韓国等で何気なく捨てられたゴミが日本にまで漂着し、美しい海岸を汚染している現状を韓国の学生が実感し、国際的な観点から環境問題を考える機会にしたいと鳥取大学と韓国・南ソウル大学校と共同で「日韓学生による海洋漂着ゴミの回収事業」を実施しました。韓国側からは、南ソウル大学校の呼びかけにより公州大学校と韓信大学校の総勢10名が自費で来日し、6月28日から7月3日にわたり、京都府宮津市の天橋立から兵庫県豊岡市の竹野浜海岸を経て、鳥取砂丘まで150kmを自転車で移動し海岸へ漂着したゴミを回収しました。鳥取大学の学生も全行程に参加したのもいしましたが、鳥取砂丘では、鳥取大学の学生・教職員のみならず、鳥取大学へ留学中の韓国の学生、砂丘観光の関係者や一般市民も参加され、総勢60名を越えた国際交流の場となりました。

作業で回収されたゴミを共に汗をかき運び出す日韓の学生の姿に、同じ目的を持つ若者の国境を越えた心のつながりと友情を感じ、学生の皆を頼もしく思いました。

(国際交流センター長 若 良二)



鳥取砂丘での回収作業



雨の中での回収作業
(兵庫県豊岡市竹野町)



参加した日韓の学生たち



センター看板を上掲する矢田日南町長(左から2番目)、能勢鳥取大学学長(左から3番目)

鳥取大学・日南町地域活性化教育研究センターを開所

鳥取県南西部に位置する日野郡日南町と鳥取大学は、3月1日に地域活性化に資する研究及び実践活動と教育研究活動を行う目的とするセンターを日南町に設置する協定を締結しました。

今春、町内の小学校で統廃合により廃校となった旧石見東小学校花口分校と旧大宮小学校を利用し、2施設を「鳥取大学・日南町地域活性化教育研究センター」として稼働することとし、7月7日に大学関係者、日南町、鳥取県、地元住民など約120名が出席し開所式を行いました。

能勢学長から、「日南町の地域活性プログラムに併せ、大学における地域や農林業等の研究・実践の場として、また、県内でも高齢化の進んだ地域であり医学部との関係も深いのが、センターを新たな活動拠点として、全学的に日南町と関わり協力・支援していきたい。」と挨拶がありました。

この後、日南町の矢田町長と能勢鳥取大学学長により、2施設の看板の上掲を行いました。



旧石見東小学校花口分校の外観

鳥取大学PRポスターを作成

鳥取大学は、大学のブランド戦略を図り、学生や教職員の連帯意識を高めることを目的に、学生・教職員から公募により選定し、大学をPRするポスターを作成しました。作品は、「人間力はどうだ！」と文字が紙面全体に赤と黒を基調に表現されたもの（写真）で、応募作品は13点ありましたが、「鳥取大学の教育方針（学生の人間力の育成）を力強く表現し、単純な構成ではあるが伝えるべきメッセージを効果的に折り込んでいる。」ことから選ばれました。

（作者は、農学部助教授 山口武視、同助教授山本定博の両氏。）

ポスターは、学外PRとして鳥取県内へ乗り入れる智頭急行の特急「スーパーはくと」、JR西日本の特急「やくも」へ車内広告するとともに、学内の掲示やイベント等に幅広く使用しています。

また、鳥取大学シンボルマーク、イメージキャラクターを学生・教職員・卒業生を対象として現在募集しており、応募要領を鳥取大学のホームページ<http://www.tottori-u.ac.jp/contents/wnew/saisin/symbolmark.html>に掲載しています。



鳥取大学の情報提供につきましては、ホームページで随時行っています。参考にしてください。

鳥取大学ホームページ
公開講座に関するホームページ
新着・イベント情報

<http://www.tottori-u.ac.jp/index.html>
<http://www.tottori-u.ac.jp/contents/kouken/lecture/lecture.html>
<http://www.tottori-u.ac.jp/contents/sintyaku/sintyaku.html>



編集後記

今回は特集テーマの一つに「地域に開かれた大学図書館」を紹介しました。過去の資料をみると、1979年に（社）日本図書館協会で「図書館の自由に関する宣言」が決議されています。骨子は以下の4点です。

1)図書館は資料収集の自由を有する。2)図書館は資料提供の自由を有する。3)図書館は利用者の秘密を守る。4)図書館はすべての検閲に反対する。ところが、最近この「自由」が脅かされているようです。例えば、ある図書館の古参の司書曰く「予算が減らされて、今年からはリクエストのお答えできなくなるかもしれません・・・。」経済的困窮は、どこでも嘆かれることですが、そこからどう前に踏み出すかが問われています。また、借りた本を返さない人や、借りた本に書き込みをしてしまう人も増えているそうです。これらは、利用者の自由の解釈の問題です。著作権や個人情報保護の問題もいろいろな手続きを難しくしました。他にも受験勉強に利用することを禁じた図書館もあるようです。これには疑問を感じますが・・・。

自由という言葉について、著書「国家の品格」の中で藤原正彦は「自由という言葉は不要」と言っています。戦時中に自由が著しく制限された反動から自由が強調されてきたが、現代での自由の強調は「身勝手の助長」にしかつながらず、と言うのです。領く方も多いのではないのでしょうか。今一斉に厳罰取締りに動いている「飲酒運転」の問題も、自由の裁量と考えていた人間が多かったのだと思われれます。誰でも自由に知的財産を享受し合える図書館とは、実はとても難しい条件の中で、成熟した人の文化として形成して築いていくもののように感じました。

（医学部 加藤敏明）

サイエンス・アカデミーのご案内

地域共同研究センターでは、大学の研究成果や話題となっている問題等をわかりやすくお話しするサイエンス・アカデミーを、毎月原則として第2、4土曜日に開催しています。受講料は無料でどなたでも受講できます。

受講内容は、鳥取大学ホームページに掲載しています。

http://www.tottori-u.ac.jp/contents/wnew_iv/ibent/science.pdf
詳細は、センター事務室までお問い合わせ下さい。

TEL 0857-31-6707 Eメール jim@cjrd.tottori-u.ac.jp

鳥取大学広報誌「風紋」(第13号)

平成18年10月発行

編集発行 鳥取大学広報委員会広報誌編集専門委員会

福井 茂 壽(委員長:工学部副学部長)

寺川 志奈子(地域学部)

加藤 敏 明(医学部)

市野 邦 男(工学部)

岡本 宗 裕(農学部)

岡本 尚 機(地域共同研究センター)

田中 耕 司(企画調整課)

住所 〒680-8550 鳥取市湖山町南4-101

TEL 0857-31-5750

FAX 0857-31-5797

E-mail fumon@zim.tottori-u.ac.jp

ホームページ <http://www.tottori-u.ac.jp>